

薬物乱用問題と化学情報

—覚せい剤、大麻、エクスタシー錠剤等—

2010年3月8日

元 厚労省 関東信越厚生局麻取部 牧野 由紀子
(東京大学薬学部薬品代謝化学教室 研究員)

1. はじめに

日本では、薬物乱用問題は諸外国ほどには関心が持たれない比較的健全な状況にある。しかし、芸能人による薬物乱用事件、相撲界や学生の大麻事件、麻酔科医師のフェンタニール中毒事件等身近なところで、薬物問題が起こり頻繁に報道され、薬物に対する警戒感の喪失が拡がりつつあり、放置できない状況にある。昨夏マスコミを賑わした薬物乱用問題及び関連の化学情報について話題を提供する。

2. 薬物乱用

日本で長い間、大きな社会問題になっているのは覚せい剤で、過去数年の薬物事犯検挙状況をみると、覚せい剤事犯が過半数以上、ついで大麻事犯、MDMAなどの合成麻薬事犯となっている。国際的には、大麻、コカイン、ヘロイン、アンフェタミン型薬物等多種多様な薬物が多国間にわたって流通しており、薬物乱用は各国共通の課題として関係国が連携して取締対策を強化していかなければならない状況にある。

3. 覚せい剤及びドラッグプロファイリング

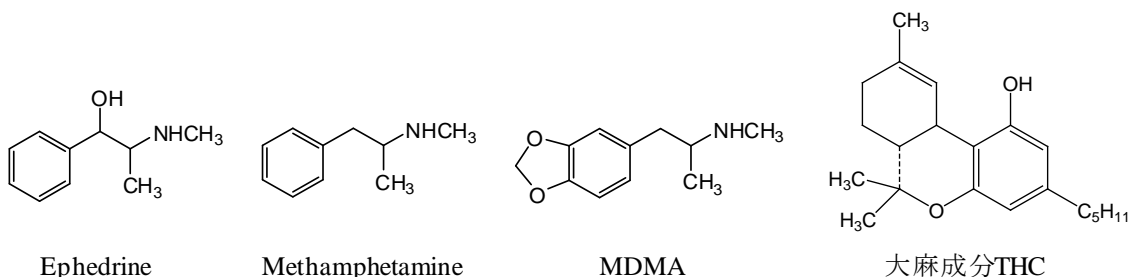
覚せい剤の体内代謝及び生体試料(尿や毛髪)分析の問題点や、炭素・窒素・水素の安定同位体比分析を中心にした覚せい剤のプロファイリングについて紹介する。

4. 大麻、エクスタシー錠剤、幻覚剤、向精神薬、指定薬物等について

各薬物の押収品を写真で紹介し、各薬物の乱用の問題点について概説する。

5. 結論

薬物対策においては乱用者の摘発や薬物による病的症状の治療で需要を断つと同時に、密造原料規制や密輸・密売の取締まりにより供給を断つことが重要である。



参考資料

1. 現代化学 2010年2月号 p.26-33
2. N.Kurashima, Y.Makino, Y.Urano, K.Sanuki, Y.Ikehara, T.Nagano, *Forensic Sci. Int.* 189 (2009) 14-18.
3. Y.Makino, Y.Urana, T.Nagano, *Bull. Narcotics* 57 (2005) 63-78.